

国際シンポジウム 「日本とはなにかー日本民族学の20世紀 ー鳥居・澁澤・梅棹・佐々木」



■ 10月18日(金) 鳥居龍蔵をめぐる

司会:佐々木 利和(北海道大学 教授)

- 13:00-13:15 挨拶
安孫子 信(法政大学国際日本学研究所 所長)
- 13:15-13:30 趣旨説明
Josef Kreiner ヨーゼフ・クライナー(法政大学 客員所員)
- 13:30-14:15 「鳥居龍蔵の見た北辺の民族の交流と境界」
齋藤 玲子(国立民族学博物館 助教)
- 14:15-15:00 「鳥居龍蔵の千島研究とその後の展開」
手塚 薫(北海学園大学 教授)
- 15:00-15:30 【休憩】
- 15:30-16:15 「鳥居龍蔵・岡正雄・馬場脩の記録にみる樺太アイヌの
竪穴住居利用について」
田村 将人(札幌大学 特命准教授)
- 16:15-16:45 コメント「鳥居龍蔵」
佐々木 史郎(国立民族学博物館 教授)
- 16:45-17:30 Torii Ryūzō: His Anthropology and Influence on
Oka Masao's Theories.
「鳥居龍蔵の人類学が岡正雄の学説に及ぼした影響」
Hans Dieter Ölschleger ハンス・ディーター・オイルシュレーガー
(ボン大学 准教授)
- 17:30-18:00 討論

■ 10月19日(土) 澁澤敬三をめぐる

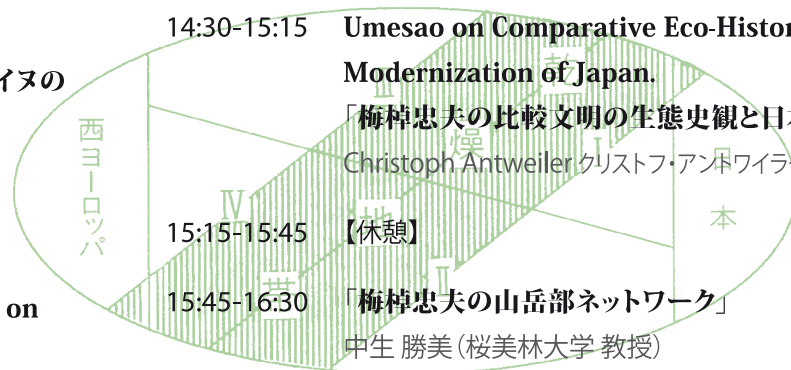
司会:福田 アジオ(国立歴史民俗博物館 名誉教授)

- 10:00-10:15 挨拶・趣旨説明
Josef Kreiner ヨーゼフ・クライナー(法政大学 客員所員)
- 10:15-11:00 「澁澤敬三が組織する共同研究ー昭和9年薩南十島
調査を事例に」
小林 光一郎(神奈川大学日本常民文化研究所 特別研究員)
- 11:00-11:30 「澁澤敬三の学際的アプローチとそのヨーロッパに
及ぼした影響」
Josef Kreiner ヨーゼフ・クライナー(法政大学 客員所員)
- 11:30-12:00 討論
- 12:00-13:00 【休憩】

■ 10月19日(土) 梅棹忠夫をめぐる

司会:曾 士才(法政大学 教授)

- 13:00-13:45 「日本民族＝文化の多元論と一元論」
清水 昭俊(国立民族学博物館 名誉教授)
- 13:45-14:30 「梅棹忠夫と谷口シンポジウム『文明学部門』
ーその軌跡と意義」
中牧 弘允(国立民族学博物館 名誉教授)
- 14:30-15:15 Umesao on Comparative Eco-History and
Modernization of Japan.
「梅棹忠夫の比較文明の生態史観と日本文化の近代化」
Christoph Antweiler クリストフ・アントワイラー(ボン大学 教授)
- 15:15-15:45 【休憩】
- 15:45-16:30 「梅棹忠夫の山岳部ネットワーク」
中生 勝美(桜美林大学 教授)
- 16:30-17:15 「梅棹忠夫のフィールド・ワーケータートからカードへの
整理に焦点をあてて」
小長谷 有紀(国立民族学博物館 教授)
- 17:15-18:00 討論



■ 10月20日(日) 佐々木高明をめぐる

司会:桑山 敬己(北海道大学 教授)

- 10:00-10:30 挨拶・趣旨説明
Josef Kreiner ヨーゼフ・クライナー(法政大学 客員所員)
- 10:30-11:15 「植民地台湾における金閨丈夫の再評価
ー帝国の検閲とゆえなき誹謗を越えて」
CHUN Kyung-soo 全 京秀(ソウル国立大学 教授)
- 11:15-12:00 「縄文時代へのまなざしー佐々木高明と特別研究
「日本民族文化の源流」」
小山 修三(国立民族学博物館 名誉教授/千里文化財団 理事長)
- 12:00-13:00 【休憩】
- 13:00-13:30 コメント「照葉樹林文化論」
秋道 智彌(総合地球環境学研究所 名誉教授)
- 13:30-14:00 コメント「ナラ林文化論」
佐々木 史郎(国立民族学博物館 教授)
- 14:00-15:00 討論



文明の生態史観序説

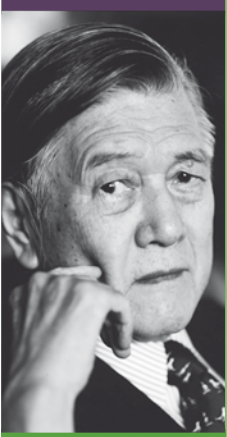


梅棹忠夫

国際シンポジウム

法政大学国際日本学研究所 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(平成二十三年～平成二十六年)
国際日本学の方法に基づく「日本意識」の再検討―「日本意識」の過去・現在・未来
研究アプローチ(2)「近代の「日本意識」の成立」

日本とはなにか―日本民族学の二〇世紀 ―鳥居・澁澤・梅棹・佐々木



法 政大学国際日本学研究所は、平成二二年度文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業に採択され、「近代「日本意識」の成立」、換言すれば、日本文化の本質や起源を取り上げ、研究を進めている。本研究プロジェクトは今年四年目に入っている。「日本意識」の成立といった問いに対する答えを追究することは、日本民俗学・民族学を中心とした人文科学の基本的なテーマである。二年前から両みんぞく学の昭和一〇年代から四〇年代に至るまでのパラダイ

ムの変化を取り上げ、討論してきた。そのなかで、特に二昨年度は、日本民族学の草分けである岡正雄の業績を国際シンポジウムの中心テーマとした。今回は、明治末期から戦後まで活躍した鳥居龍蔵、人類科学の学際的共同研究を進めた澁澤敬三、戦後の全く新しい日本の理解を示した梅棹忠夫、そして、岡の問題意識を継承した佐々木高明、そういった二〇世紀の「日本とは何か」という問いの答えに大きく貢献した偉大な研究者を取り上げたい。

- 写真提供
千里文化財団 / 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
/ 公益財団法人渋沢栄一記念財団渋沢史料館
/ 村越元 / 吉本忍 / ヨーゼフ・クライナー
- 法政大学国際日本学研究所 事務室
東京都千代田区九段北 3-2-3 九段校舎別館 1階
Tel:03-3264-9682
Fax:03-3264-9884
E-mail:nihon@hosei.ac.jp
http://hijas.hosei.ac.jp/



日時

二〇三年

十月一八日(金) 13時～18時
十月一九日(土) 10時～18時
十月二〇日(日) 10時～15時

会場

法政大学九段校舎3階 第1会議室
(東京都千代田区九段北3-2-3)